

長崎県藪路木島方言における 助詞「ぞ」についての初期報告

原田走一郎（長崎大学多文化社会学部）

2021年12月12日

国立国語研究所

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

オンライン研究発表会

1. はじめに

- 長崎県蘆路木島（やぶろきしま）方言には以下に示すような助詞「ぞ」（下線）がある。

(1) 平戸ち言いをるばっち違うと。長崎かるぞ来た
「平戸と言っているが、違うんだ。長崎から来た」

(2) んねんね、あすこじえなか、ここでぞおれ滑った
「いやいやあそこじゃなくて、ここで私は滑った」

1. はじめに

- 本発表の目的：

藪路木島方言の「ぞ」の基本的な情報を整理する。

- ①統語的位置
- ②格助詞との承接
- ③焦点の範囲
- ④焦点の種類
- ⑤文タイプとの関係
- ⑥「ぞ」を用いた反語 & 「ぞ」で終える文

1. はじめに 結論のまとめ

- ①統語的位置

【述語にかかる要素】

- ②格助詞との承接

【*のぞ、*ばぞ】

(→ 目的語には「ぞ」は付くが、「水ぞ飲む」のようになり、「ば」はとらない。)

1. はじめに 結論のまとめ

- ③焦点の範囲
【項焦点、文焦点】
- ④焦点の種類
【対比】
- ⑤文タイプとの関係
【疑問文には生起不可】

1. はじめに 結論のまとめ

- ⑥ 「ぞ」を用いた反語&「ぞ」で終える文

「させられちぞ 覚ゆっと」

(「させられてこそ覚える。」)

「させられちぞ ある」

「させられちぞ」

1. はじめに

- 藪路木島は現在は無人の島である。
- 1944年に藪路木島で生まれ、現在は長崎市内在住の男性に教えてもらっている。



原田走一郎 長崎県藪路木島方言における助詞「ぞ」についての初期報告

2. 統語的位置

- 小田（2015：435）「「ぞ」「なむ」「こそ」は、述語に係る成分であれば、原則として、どのような成分にも承接することができる。」（古典語）

(3) この歌を★よろしと★聞きて★、翁★、
月頃の苦しき心やりに★詠めり。（p.437）

2. 統語的位置

• 狩俣（2020）（那覇方言）

- 主語焦点
 - 補語焦点
 - 状況語焦点
 - 述語焦点
- 我が=ドウ 悪ッサイビール。
 - 貴方又御息女又敵=ドウ 討ッチ
 - 銭一クンナ場ニ=ドウ 使イル。
 - 鬼=ドウ ヤシガ。

2. 統語的位置

- 藪路木島方言においても「述部にかかる要素」であれば「ぞ」は付く。
 - 主語
 - 目的語
 - 周辺項
 - 状況語
 - 従属節

2. 統語的位置

- 主語

- 動詞述語文

- (4) おとーとじえなか、いもーとがぞ壊した
「弟じゃない、妹が壊した」

- 形容詞述語文

- (5) そるじえなか、こるがぞよか
「それじゃない、これがいい」

- 名詞述語文

- (6) 孫ぞ宝 (※「宝」しか得られていない。要確認)
「孫こそが宝」

2. 統語的位置

- 目的語・周辺項

- 直接目的語

- (7) おるが酒ぞ飲む

- 「私の酒を飲む」

- 間接目的語

- (8) マサルじえのーしち、テツオにぞわてたつ

- 「マサルじゃなくて、テツオに渡したんだ」

- 周辺項

- (9) Aじゃなか、Bじえなか、Cとぞいた

- 「Aじゃなくて、Bじゃなくて、Cと行った」

2. 統語的位置

- 周辺項

(10) なんのひだるからずるかよー。右の家かるぞ出た
「左の家から（火が）出るもんか。右の家から出た」

- 状況語

(11) こんてがめ、きのぞとでたった
「この手紙は昨日届いたんだ」

2. 統語的位置

- 従属節

(12) Aといっけんぞ釣らえんとた
「Aと行くから、釣れないんだ」

(13) ふい食うちぞ、よか
「（鍋の話。）冬に食べてこそ、いい」

2. 統語的位置 留意点

- 従属節の種類で従属節内の生起の可否に差があるかもしれない。今後要確認。

(14) おーれあすこでぞ滑っ**ち**、こげんなケガばした

「私はあそこで滑って、こんなケガをした」

(15) *どろがみぞおとろしか**けん**、おれ隠れた

「雷が恐ろしいから、俺は隠れた」

(16) どろがみおとろしか**けん**ぞ、おれ隠れた

「雷が恐ろしいから、俺は隠れた」

2. 統語的位置 留意点

- 「ながらぞ」は非文法的（古典語や琉球語との違い）
- 状況語でも文法性に違いがある。
(17) *いすえじじえなか、ゆっくるぞいたした
「急いでじゃない、ゆっくり行って来た」
- 述部焦点については今後要確認。

2. 統語的位置 留意点

- 主語は「Nぞ」と「Nがぞ」があるが、差は不明。

(18) あんこ {ぞ / がぞ} する

「あの子がする」

(19) おる {ぞ / がぞ} する

「私がする」

3. 格助詞との承接 例文は省略します。

OK	NG
がぞ にぞ でぞ かるぞ（「からぞ」） とぞ	のぞ ばぞ をぞ

※留意点

・“対比”の「が」（「右の家かるが出た」）とほぼ同じふるまい（「が」への後接を除く）。他の「とりたて助詞」要確認。

4. 焦点の範囲

- 項焦点の場合も、文焦点の場合もある。述部焦点は要確認。（古典語「ぞ」の焦点範囲に関して、小田（1989））
 - 項焦点
 - (20) 雨じえなか、雪ぞ降るをる
「雨じゃない、雪が降っている」
 - 文焦点
 - (21) んーねさむなったなー、およまたー、雪ぞ降るをる
「いやー、寒くなったなー、あら、雪が降っている」

5. 焦点の種類

- 対比焦点。
- Shimoji(2018)による焦点タイプ

	Contrastive Focus	WHA Focus	WHQ Focus
contrastive	+	-	-
exhaustive	+	+	-
new information	+	+	+

5. 焦点の種類

• WHQ

(22) {いつ / *いつぞ / いつが} とでたつか
「いつ届いたのか？」

(23) こん腰掛けは {だーが / *だーぞ / *だーがぞ}
壊したつな？
「この椅子は誰が壊したのか？」

5. 焦点の種類

- WHA

(24) {きの／＃きのぞ／きのが} とでたつ
「昨日届いた」

(25) おとーと {ん／＃ぞ／＃がぞ／が} 壊したつよ
「弟が壊したんだよ」

5. 焦点の種類

- Contrastive

(26) こんてがめ、きのぞとでたった
「この手紙は、昨日届いたんだ」

(27) おとーとじゃなか、いもーとがぞ壊した
「弟じゃなくて、妹が壊した」

6. 文タイプとの関係

- 疑問文には「ぞ」は生起しない。
- 勧誘文、命令文は要確認。

6. 文タイプとの関係

- 疑問文

(28) おまえはあん島に {*ぞ/が} よー行くとか
「お前はあの島によく行くのか」

(29) *なんばー、いんがぞこーだつか
「なんだって？犬が噛んだのか？」

6. 文タイプとの関係

- 命令文

(30) 今 {ぞ／が} 掃除ばせれ
「今、掃除をしろ」

(31) 今度はさせぶじえの一しち、長崎い
{*ぞ／*が} 行け
「今度は佐世保じゃなくて長崎に行け」

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

- 「ぞ」を用いた反語表現、およびそれが固定化したと思われる「ぞ」で終える文がある。

(32) させられちぞ 覚ゆっと

「させられてこそ覚える。(させられてない)」

(33) させられちぞ ある

(34) させられちぞ

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

- 「～ちぞ ある」で反語を表す。

(35) a. あすこんチャンポンねんまかったろ？

「あそこのチャンポンはおいしかったろ？」

b. くちぞある

「食べてない (lit. 食ってぞある)」

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

- 「～ちぞ ある」で反語を表す。



(36) (あの子のこといろいろ私に聞くけど)

おーちぞある

「会ってない」

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

- ただし、「ぞ ある」で固定化されているわけではなさそう。「～ちぞ ある」で固定化か？

(37) お前が言うけんぞある。

「お前が言うから。（お前がその話ばし出したからこそだが、俺は言うつもりはなかったのだけど。）」

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

- 「～ちぞ」で文を終える場合、特有のイントネーションを伴う。



(38) あん子におーちぞ
「あの子に会ってない」

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

(39) a. 今日はいをは釣ったつな

「今日は魚は釣ったのか」



b. 釣るも釣らんも、お前、いえさんアジば釣りきらん。
いえさんアジば釣ちぞ。

「釣るも釣らんもお前、餌の鯿が釣れない。餌の鯿を釣ってこそ。」

7. 「ぞ」を用いた反語, 「ぞ」で終える文

- 「こそ」でも同じイントネーションで似た意味になる。
(方言における反語を表す文末の「こそ」については大西(2003)、小林(2003))

(40) a. あん子のほんなこつそげんなこつば言うたつか
「あの子が本当にそんなことを言ったのか」

b. 言うちこそ
「言っていない。」



8. 今後の課題

- 「ぞ」と「が」の違い／関係。
- 藪路木島方言には「ぞ」とよく似た「が」がある。

(41) あすこじえなか、ここで {ぞ／が} 滑った
「あそこじゃなくて、ここで滑った」

8. 今後の課題

- 「ぞ」と「が」の違い

		ぞ	が
統語的位置	違いあり	広	狭 (直接目的語、一部の従属節は不可)
格助詞との承接	ほぼ一致	「がぞ」あり	「がが」なし
焦点の範囲	要確認	述語焦点要確認	述語焦点はないと思われる
焦点の種類	違いあり	対比のみ	新情報でもOK (ただし助詞連続の場合は違うかも)
文タイプとの関係	違いあり	疑問文には生起しない	疑問文にも生起する

8. 今後の課題

- 「ぞ」と副助詞の相互承接
「だけぞ」などにあたるものが可能か確認する。
- モダリティとの関係（勝又 2005）
これまで、推量との共起が少ないが、偶然だろうか？
- 「のだ文」との関係
「ぞ」は「のだ文」に生起しにくい？
- 語順との関係（小田 1989）
「ぞ」は述語の直前が好まれるか？

参考文献

- 大西拓一郎 (2003) 「方言における「コソ～已然形」係り結び」『国語学』 54 (4)
- 小田勝 (1989) 「出現位置からみた係助詞「ぞ」」『国語学』 159
- 小田勝 (2015) 『古典文法総覧』 和泉書院
- 勝又隆 (2005) 「上代「一ソー連体形」文における話し手の認識と形容詞述語文」『日本語の研究』 1 (4)
- 狩俣繁久 (2020) 「沖縄語那覇方言の焦点助詞と情報構造」『南島文化』 42
- 小林隆 (2003) 「特立のとりたての地理的変異」沼田善子・野田尚史 (編) 『日本語のとりたてー現代語と歴史的変化・地理的変異』 くろしお出版
- Shimoji, Michinori. 2018. Information Structure, Focus, and Focus-Marking Hierarchies in Ryukyuan Languages. 『言語研究』 154

付記 本研究は19H01255、19H01262を受けている。